

取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

タイトル	生き生きと支え合って暮らせる地域づくりの推進
-------------	-------------------------------

現状と課題

伊達市ニーズ調査では、外出頻度について「ほとんど外出しない」、「週1回」と回答した高齢者が約20%だった。さらに、趣味のグループやボランティア等へ参加していない高齢者は約30～40%いる状況となっている。高齢者が元気で生き生きと暮らすためには、その知識や経験、能力を発揮できる機会を確保し、生きがいや充実感を高めることが大切となる。

少子高齢化が進む中で、介護保険サービス等の公的サービスに加え、住民同士の支え合い・助け合いといった「互助」が重要となることから、地域との話し合いの場を設けながら取り組みを進める必要がある。

第7期における具体的な取組

- ・日常生活の支援体制整備

目標（事業内容、指標等）

○生活支援体制整備事業

（事業内容）

- ・生活支援体制整備協議体
- ・生活支援コーディネーターの活動支援
- ・支え愛★地域づくり座談会
- ・生活支援サービスの創出

（指標）

- ・支え愛★地域づくり座談会

項目	2018年度	2019年度	2020年度
開催地区数	6	8	10
座談会開催数	24	26	28

目標の評価方法

- 時点
 - 中間見直しあり
 - 実績評価のみ
- 評価の方法
 - ・支え愛★地域づくり座談会の開催地区数及び座談会開催数を計上

取組と目標に対する自己評価シート

年度	令和元(2019)年度
実施内容	
<ul style="list-style-type: none">・ 支え愛★地域づくり座談会 3 地区で開催し、座談会開催数は 4 回開催	
自己評価結果【△】	
<ul style="list-style-type: none">・ 各地区での座談会開催などの活動を進めた結果、地区ごとの課題やニーズの具体化とその対応方法の方向性についての検討が進んだほか、2 地区では地区住民への状況説明のチラシを作成・配布するなど、支え合いに向けた検討状況を周知することができた。	
課題と対応策	
<p>地域課題について自治会長など地域の方に理解を深めていただいたうえで、対応する必要な支援（例：「生活手助け・安否確認」）を具体的にどう実施していくか、担い手をどうやって確保していくのが今後の課題。</p> <p>今後、生活支援コーディネーターを中心に、地域との話し合いと並行して、担い手も含めた地域資源の発掘にも取り組んでいく。</p>	